

第2回宗像市世界遺産保存活用検討委員会 専門部会 議事録

■日 時：平成29年10月23日（月）14:00～15:30

■会 場：宗像市役所 第2委員会室

■出席者：

【委員】西谷正、山野善郎、河窪奈津子、黒木貴一、仲間浩一

【オブザーバー】福岡県文化財保護課・福岡県世界遺産登録推進室

【事務局】宗像大社・宗像市世界遺産登録推進室・郷土文化課

≪質疑・意見≫

1. 国指定史跡「宗像神社境内」保存管理計画について

委員：p119の表は文中の定義・分類と表の中の文言が違っているので読みにくい。例えば「増築」の定義がない。

事務局：表現については工夫する。

委員：p104「史跡の周辺環境を構成する諸要素」について保存管理の方針方法に記載がない。史跡の近接地などの保存管理についての記載がなくてもよいのか。

事務局：基本的には史跡内のことについて記載している。史跡外については景観条例などで担保するしか手段がないと感じている。

委員：景観条例だけでは周辺環境を守っていくことは不十分だと感じているが今後検討していく必要があるだろう。

事務局：整備計画やランドデザインの中でできるだけカバーしていきたいと考えている。

委員：p113「海底遺構」ではなく「水中遺跡」という表現のほうが良いのではないのか。

2. 世界遺産・国指定史跡整備計画（仮称）について

委員：整備計画の図面が独り歩きする恐れがある。解説版や銘板がピンポイントで図示されているが、史跡の風景や価値を来訪者が体験していくことを今後検討していくのであれば図面を出すべきではない。この範囲にこのような機能が欲しいということは記載してもよいが、具体的な施設配置は入れるべきではない。

事務局：この図面については詳細な位置を検討できているものではない。

委員：機能のリストを示しているのであり、配置を示しているのではないということを明記してほしい。

委員：p15に「宗像神社」とあるが宗像神社は全国各地にあるものなので宗像大社に統一したほうが良い。

委員：市として沖ノ島の戦時遺構をどのように扱っていくのか。

事務局：市としては整備も撤去も行わない考えである。

委員：神聖な島であっても戦時下においては軍の施設がつくられてしまうという事実は何らかの形で示したほうが良いのではないのか。

委員：目視が主流の時代の産物であり、海上交通の要衝を地政学的に抑えたという事実は説明をしたうえで位置付けるべきではないのか。

事務局：現地の整備を行うものではないが、ガイダンス施設等で紹介することについては問題ないと考えている。

事務局：取り扱いについては悩ましいが、大社としては撤去も行わず、積極的な活用も行わないというのが現状である。

事務局：戦時遺構を紹介する媒体は色々あるのでこの計画内では特に記載しない。

委員：p14案内板、解説板だけではなく銘板も表記してほしい。

委員：世界遺産になったので計画名称に国史跡という文言を入れなくてもよいのでは。「宗像市世界遺産整備計画」という名称でよいのではないか。

3. 文教施設のコンセッション事業に関する先導的事業について

委員：民有地と公有地が混在していると思うが、事業の発注者は誰になるのか。

事務局：今回は様々な事業手法のメリット、デメリットを整理する段階までだと考えている。具体的な事業主体は検討の中で出てくる話だろう。

委員：博物館のような施設なのか、研修施設のようなものをイメージしているのか。

事務局：現段階では既存施設のむなかた館や祈願殿、神宝館のほか、整備予定の世界遺産センターの機能の再配置と事業手法の検討を行うということしかお答えできない。

4. その他

委員：社叢林となっているが、社叢学会という名称があるように、通常、社叢という文言を使う。

5. 次回開催日

平成30年1月18日（木曜日）10：00第二委員会